

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
（分担）研究報告書

種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明と
患者ケアの向上を目指した複数疾患領域統合多施設共同疫学研究

端詰 勝敬 東邦大学 医学部 教授

研究要旨

高齢者に潜在する中枢性感作の縦断的な検討により、精神的健康度の低さが増悪に関連する可能性が明らかになった。

A. 研究目的

高齢者に潜在する、化学物質過敏症や片頭痛などの難治性疾患と関連する中枢性感作の推移と増悪に関連する要因について明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

2年間連続地域健診に参加した65歳以上の高齢者を対象に年齢・性別などの背景要因、歩行速度や骨格筋量指数などの身体機能、Central Sensitization Inventory (CSI)を含む健康調査と構造化面接による網羅的な心身の状態について縦断的に推移を評価した。

（倫理面への配慮）

実施機関の倫理委員会承認後、対象者に研究内容を文書で説明、同意を得て実施。

C. 研究結果

1年の経過でCSIは有意に上昇を認めた。CSIの増加群と非増加群の背景要因の比較では身体機能などには有意差を認めなかったが、CSI増加群では前年度における精神的健康度が有意に低かった。

D. 考察

地域高齢者に潜在する中枢性感作は、経年的に増加する可能性が示唆された。中枢性感作の増加する背景には、精神的な健康度の低さが存在している可能性が考えられた。

E. 結論

高齢者に潜在する化学物質過敏症等の中枢性感作症候群の対策には、精神的な健康度の維持が重要である可能性が考えられた。

F. 健康危険情報

なし（総括研究報告書にも別途記載）

G. 研究発表

1. 論文発表

橋本和明, 端詰勝敬ら. 地域高齢者に潜在する中枢性感作の縦断的検討. Geriatric Medicine 59(1)91-96, 2021.

2. 学会発表

橋本和明, 端詰勝敬ら. 前向きコホートによる都市部高齢者の中枢性感作の変化と背景要因. 第27回日本行動医学会学術総会, 2020.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし